



(写真左から)ロシア人、英国人、ブラジル人のルームメイトと

べたことだと思う。「世界市民として生きる」とは、国という枠組みを越えて、地球に住む一市民として生きるということである。これは生き方についての理念であると同時に、一つのスキルのようなものだ。国という枠組みに縛られなくなること、人生の舞台は広がり、「世界への切符」を手に入れる。実際に私は、英国のアトランティック・カレッジから、大学は米国へ進学し、米国在学中もデンマークへ半年、中国へ二カ月留学した。友人の家を転々として世界一周を成し遂げてしまいう人もいれば、母国では会うことのない地球

の反対側の人と結婚する人もいる。国境を越えて世界市民として生きること、人生の可能性は大いに広がる。

### 👉世界市民として生きる「責任」

「自由には責任が伴う」といわれるように、世界市民として生きることにも「責任」が伴う。そして、その世界市民としての「責任」を学べるからこそが、UWCの大きな魅力なのではないか。国境に縛られずに生きるという「自由」は、さまざまな国から集まる人たちと暮らすことで、自然と獲得できる。一方の「責任」は、普通なら学ぶことも難しければ、実践することも難しい。また、個人にはそれぞれ考えがあつて、どれが正解というわけでもない。貧しい国に行き、自らの手で人助けをすることが、世界市民としての「責任」を果たすことだと考える人もいれば、金融によって世界を豊かにすることで「責任」を果たそうとする人もいる。当然、家庭の環境や母国の情勢が理由で、自らの人生を選べない卒業生もいるが、そのような仲間のためにも、恵まれている者たちは自分の手にした「自由」をより有益に活用し、背伸びをして「責任」を果たそうとする。

私の場合はその「責任」を、地域に貢献するまちづくりに携わることでも果たしていける

ばと思っている。それだけを実践するのであれば、日本の会社でなければいけないということはないが、それと同時に、UWCで学んだ「世界市民として生きること」を少しでも他の人に伝えられればと思う。それらをもとに導き出した自分なりの答えが、日本の会社で働くということだった。日本の会社にグローバルな視点を持ち込み、将来的には、地域に貢献するまちづくりを世界で行う。それは単に英語が話せればできることではないし、外資系企業に働いていてもできないことだ。国にとらわれない自由と、世界に貢献する責任を学ぶUWC留学を経験したからこそその選択だったといえる。

「世界市民として生きる」こと以外にも、UWCへ留学することで学べたこと、経験できたことはたくさんある。そのどれもが貴重なものばかりだが、何よりも、ルームメイトをはじめ世界各国から集まるUWCの友人との出会いこそが私にとって一生の宝物である。また、UWCへの派遣をきっかけに世界は広がり、自分の好きなことばかりやることができた。このような「自由」を得るチャンスを得たこと、心から感謝するとともに、世界市民としての「責任」を少しでも果たせるよう、これからはがんばっていききたい。

# 世界市民として生きる(UWC)

三菱地所都市開発事業部

大坂俊裕

おおさか としひろ

麻布高等学校より、二〇〇三―二〇〇五年UWCアトランティック・カレッジ(英国)留学。ウエズリアン大学(米国)芸術学部建築学科卒業。二〇一〇年より三菱地所都市開発事業部勤務。



## なぜ日本の会社に入ったの？

高校時代から海外に留学していたことを話すと必ず聞かれる質問だ。「海外に留学した人は外資系企業で働くもの」という思い込みがあるようだ。確かに、私の周りの留学経験者にも多い。しかし、それが故にUWCへの留学が、外資系企業で働くためのステップだと勘違いされてしまったのはとても残念である。UWCへの留学が個々人に与える影響は多様であり、さまざまなチャンスをつかみ取る力を与えてくれる。なぜなら、UWCが教えてくれるのは、外資系企業での働き方ではなく、「世界市民として生きる」ことだからだ。そ

してこれこそが、UWCの大きな特徴であり、かつUWCへ留学することの意義なのだと思は思う。

## ハリ・ポッターのお城で過ごす二年間

私が高校二年の夏から留学したのは、英国のアトランティック・カレッジだった。英国ならばロンドンだろうと思われる方も多いが、アトランティック・カレッジがあるのはロンドンからバスや電車を乗り継いで四時間もかかるウェールズの片田舎である。自然に囲まれた、高校時代を過ごすには素晴らしい環境だった。なかなかイメージしにくいと思うが、

●ユニテッド・ワールド・カレッジ(UWC)日本協会

UWCは、世界各国から選抜された高校生を受け入れ、教育を通じてグローバル人材を養成する国際的な民間教育機関(本部 ロンドン)。UWC日本協会は、UWC活動を日本で普及させるため、経団連の全面的支援のもとに設立され、UWCに派遣する高校生の選考や奨学金の支給等を行っている。奨学金は、UWCの趣旨に賛同する経団連主要会員企業等からの寄附金を原資としており、企業の社会貢献活動として、UWC日本協会へのご入会を検討いただきたくお願い申しあげる。

海に臨む緑豊かな大自然のなかに、ハリ・ポッターのホグワーツ魔法魔術学校が存在すると想像してもらえればよいと思う。十二世紀に建てられたSt. Donat's Castleを中心にキヤンパスが広がり、世界各国から集まる三〇〇人ほどの学生がそこで寝食をともにする。寮は基本的に四人一部屋で、なるべく違う大陸の人とルームメイトとなるようになっていく。私は、ロシア人、英国人、ブラジル人と同室だった。

## 「世界への切符」を手に入れる

そのような環境で二年間を過ごすことは、それだけで意味があることだが、私にとつて(そしてほとんどの卒業生にとつて)の最大の成果は、「世界市民として生きる」ことを学